



# 八千代オイコス かわら版

第38号

平成30年9月15日発行  
NPO 法人八千代オイコス  
<http://www.yachiyo-oikos.jp/>

## 米づくりのこれまで ～春から夏～

### ①種をまく

育苗箱という苗を育てる箱に、加えた床土と肥料を詰め、播種機を使って、芽出しをした種を均一にまきます。まいた後はうすく土をかぶせます。

### ②苗を育てる

育苗箱はビニールハウスやビニールでおおったトンネルで育てられます。昼と夜の温度差を管理したり、土の水分を調整して大事に大事に育てます。

## 春

### ③田んぼの土をつくる

田んぼの土をトラクターでたがやし、やわらかく掘りおこして田植えにそなえます。土の性質によって、肥料をまいて良い土をつくります。



### ④田に水を入れる（代かき）

田に水を入れ、土がトロツとするまで、ロータリーという機械でかきまぜながら、土の表面が平らになるようにならしていきます。これを「代かき」といいます。

### ⑤田植え

田植え機を使って、まっすぐ、むらなく苗を植えます。手作業で植えます。昔は家族みんなで数日かけて、手で植えていました。稲を育てる



### ⑥田の草取り

本来は1週間に1回ぐらい草取りに入りますが基本的な消毒はラジコンヘリで7月の末に全体的に撒いてくれるので月に1回程度で済みました。



## 夏

### ⑦水管理・防除

田の水が少なくなったら水を足し、多すぎる時は水の落とし口を開けて水を抜いたり、きめ細やかに水量を調整します。また、防除と呼ばれる害虫や雑草から稲を守る日々が続きます。

### ⑧中干し

稲がある程度育つと、田んぼの水を抜いて土を乾かし、稲の根を空気にふれさせ、土に酸素を補給させます。これが「中干し」という作業です。稲穂の出る時期になると、数日おきに水を抜いては入れる作業をします。今の時期は7月の半ばに稲の花（白色）が咲くと田んぼには入りません。緑一面の稲が風に揺られ波のようにならなっています。これから少しずつ金色に替わって来月には刈り取れるでしょう。



## はじめての米作り

小学2年 川又 風雅

お父さんが申し込んだ米作り。さいしょはめんどくさいと思っていたけど、なえをうえたり、そのときドロに足がはまってうごけなくなったり、手がどろだらけになったりして、どんどんおもしろくなってきました。

この間、草むしりに行ったときは、なえが大きくそだっていて、ビックリしました。

田んぼに入ると、前の草むしりのときは おたまじゃくしがいっぱいでしたが、小さいカエルになっていました。草むしりをしたさいごの方で、大きいカエルを見つけたので、小さいカエルをつかまえて大きいカエルの上のせたら、小さいカエルをのせたままにげて行きました。

草むしりはあつくてたいへんだったけど、お米ができるのがたのしみです。



## 米作り体験に参加して

小学4年 室田 紬葵

米作りに初めて参加しました。

最初に、「ごはん」という映画を見る前は、お米作りは、かんたんだと思っていました。だけど、5月にやってみると長ぐつが、はまるぐらい足もとがぐちゃぐちゃでした。なので、くつ下で入ることにしました。その日は、暑かったので、ぼうしをかぶっていました。田植えでは、こしを低くしないといけないので、すぐにつかれました。1行ずついいねいにやっていたので、すごく時間がかかりました。終わったら足はべとべと、手はぬるぬるだったので、バケツの中に足を入れてゆすぎました。でもまだ足はきたないので長ぐつで帰れず、くつ下で帰りました。八千代オイコスから田植えの場所まで1km位あるので少し足がいたくなりました。

田植えをしてどれだけ大変なのかわかりました。いつもふつうに食べているお米が、こんなにくろうして作られていることがわかりました。

これからは少しでもお米をおいしく食べていきたいです。

## 稲の雑草取り

小学4年 池上 翔

今回は稲の雑草取りをしました。1回目の田植えの時には、長靴が短かったけれど、今度は長いのを買ってもらいました。

係りの人は、「なえとぎっ草の区別は色でわかります」と言ってくれました。それを目当てにしてがんばっていくとかんたんにわかりました。前の田植えよりもかんたんでした。

休み時間の時、係りの人が「ぜんぜん、ぎっ草がとれてない」と言っていました。休み時間が終わってやるとき、さっきやった2倍も3倍もがんばりました。弟はみんながとったぎっ草をバケツにいれて、何回も行ったり来たりしていました。ぼくはさっきより楽しくなり、笑いながらやりました。

ぼくは稲がどういうふう成長するのか、とっても楽しみです。



## はじめての田植え体験

小学4年 田中 海翔

5月6日。

お父さんに「田植えに行くじゅんぴしろ!」と言われて、ビックリしながらじゅんぴしました。

田んぼには、10センチぐらいの苗がいっぱい置いてあって、ぼくはお父さんと一緒に初めて田んぼに入りました。田植えはすぐにできてかんたんだと思っていたけど、土がドロドロで足が重たくなって3回も転んでしまいました。

2回目は、6月の草取りでした。苗は25センチぐらいに育っていました。

3回目は、7月の草取りで、苗はぼくのこしぐらいまで成長してて、ぎっ草もすごく大きくなって、かゆくて痛くて暑かったけど、汗だくになりながらがんばって草取りしました。

農業をやっている人はすごいな、と思いました。

しゅうかくの時、どのくらいまで成長するのか楽しみです。

オイコス スタッフ 小林 和幸

田んぼの会も、5月田植え、6・7月草取りを経て、8月は自然観察会。

11家族35人が参加。高温注意の為、車で「むつみの森」に移動。里山むつみ隊の皆さんが手入れした森を散策、いろんな生き物を見つけたと、子供の歓声で開幕。

稲束を縛る縄を作る「藁すぐり」を山崎講師の指導で体験。スタッフのアイデアで熊手を利用、あっという間に用意した藁が、縄に変身。また、山崎さんから、田んぼの稲は順調に生育していると報告があった。

もう一つの体験、竹での水鉄砲作り、ほとんどの子が初挑戦。大土講師の指導の下、穴をあけ、竹に布を巻き、を根気よく繰り返して完成すると、井戸水注入、発射で、水に濡れるも、興じる子供本来の姿にスタッフも顔がほころぶ。大土さんからは、竹トンボのプレゼントも。

身体を動かした後の、おにぎりや弁当の美味しさは格別。食後は、ロープを使ってのターザンごっこで、ブランコを楽しみ、スタッフが前日一時間以上かけて制作の竹馬三騎にも挑戦。乗れなかった子供が親のアドバイスで乗れるようになった時の親子の笑顔が最高。最後は、スイカのプレゼント。乾いたのどに瑞々しい甘さが広がる、種飛ばしする親子も。

木が暑気を和らげてくれた木漏れ日の中、自然と遊ぶ、戯れる楽しさを感じた夏の日でした。山崎さん、大土さん、お二人の講師と、むつみ隊の皆さんに感謝。

## 生きものたんけん

小学2年 岡本 悠杜

きのうぼくはお父さんとオイコスのお米づくりにいきました。でもお米づくりはありませんでした。生きものたんけんでした。ぼしょは八千代のうぎょうこうりゅうセンターのちかくのヤマトミクリの里というところでした。水でっぼうをつくったり、ターザンをしてあそびました。生きものたんけんでは、かまきり、きりぎりす、なぞのくもなどがいました。カラスが食べたカブト虫のあたまがおちていてびっくりしました。ターザンは、オイコスの人になんどもせなかをおしてもらったので、いきおいがあつたのしかったです。わらすぐりもしました。ぜんぶおもしろかったので、また行きたいです。

## 自然観察体験

小学5年 青柳 敬太

ぼくは、一番たのしかつたのが、水でっぼう作りでした。なぜかという、ぼくは工作が好きなので、とてもたのしかつたです。とくに穴をあける所がむずかしかつたです。

わらすぐりでは、鉄せいのくま手で、わらのたばをシュッとやるのがとても気もちよかつたです。そうするとわらの葉の部分がつれて、わらのしんだけ残りました。わらのしんは、いねかりの時にいねをたばねるのに使います。ほかにも昔の使い方ではたたみやミノ（今のカップみたいな物）に使つたそうです。

また水でっぼうとわらすぐりをやりたいです。

## 楽しかったしぜんかんさつ会

小学校2年 いい村 とわ

今日も草むしりだと思っていったら、ひみつの森につれていってもらえてなんだかワクワクしました。森を歩いたらまるくわっかになっている木を教えてもらい、どうやってあんな風になったのかとてもふしぎでした。

ポンプでいどの水をくんだのもはじめてでした。押すと少し重かったけどがんばって押したら水が出てきておもしろかったです。水はすごく冷たくてすいかを冷やしました。

わらすぐりのこともはじめてしりました。枯れた草がみるみるきれいになったのでおもしろくて何回もやりました。

竹で水てっぽうもつくりました。水てっぽう作りは竹の太さに合わせて布をまくのがむずかしかったけど、できあがったら水がすごくとんで楽しかったです。

さいごにじゃんけんで勝って、竹うまをもらえてすごくうれしかったけど車に乗せるのが大変でパパと工夫して乗せました。まだ乗れないけどれんしゅうして乗れるようになりたいと思います。



## 楽しかった睦の森

小学5年 田中 彩葉

「わっ冷たい」井戸の水は、このすごく暑い夏でもびっくりするぐらい冷たかった。

今日は、田んぼは休みで「睦の森」に連れて行ってもらいました。睦の森は大きい森でした。到着して最初にしたのは森の探検です。そこにはセミの抜け殻があり、妹たちは「怖い」とはしゃいでいました。私が気になったのは杉の木です。2本の木が根っこはべつべつで私の身長の上ぐらいから1本になっているものや、その逆で1本の木から2本になって1本に戻ったDの様な形をした木もありました。

その後、わらすぐりと水鉄砲作りに挑戦しました。わらすぐりでは本来使う道具がなかったので鉄の熊手を使ってはかまを取り除いていきました。昔は、わらで俵を作ったり縄にしたりぞうりにしたりと、色々なことに使われていたそうです。水鉄砲は竹の筒の底にきりで穴をあけ、棒に布を巻いて筒とぴったり合うように布を巻き、水を押し出せるようにして作りました。思った以上に水は勢いよくふきだして小さい子たちは大喜びでした。水鉄砲といえばお店で買うものだと思っていたので自分で作れることを知れて良かったです。

## 谷津田と森のステキなつながり

青柳 裕美

「むつみの森ってどこだろう？」8月5日の八千代オイコス米作りの案内をいただいた時、場所はどこかしらと頭に大きなハテナ??が浮かびました。当日、集合場所の農業交流センターでむつみの森までの地図をいただいて、すぐに合点。そこは、今まで何度となく車で通り過ぎてきた道のそば、いつもここだけ異空間だと感じていた、ほんの一瞬だけ木陰に包まれる気になる場所だったのです。

蝉の大合唱に迎えられながら、森を散策すると、花粉症の大敵スギ以外にも様々な植物が生えていることが分かりました。そしてこの森が受けた雨水が、森のミネラルとともに下にある島田谷津に流れることで、田んぼが豊かになるのだと教えていただきました。今まで、谷津田は、希少な生物がいるところ、美味しいお米がとれる場所、なんだか良いイメージと思うくらいでしたが、森とのつながりがあって、谷津田も豊かなのだと身をもって、感じることができました。最初にいただいた地図が頭の中で意味を持ってつながり、帰って地図を眺めるだけでニヤニヤとしてしまいました。

そのような場所が、八千代市内の身近にあり、さらに今年は米作り体験をさせてもらえて、とてもラッキーと思いました。準備をしてくださる八千代オイコスの皆様には、感謝しております。

いよいよ来月は、稲刈りです。息子と一緒に楽しみにしています！



## 今年もホタル観賞会開催



オイコス夏の恒例行事、「ホタル観賞会」を今年も8月4日(土)に開催しました。例年<川の学校>参加の親子対象に参加を呼び掛けてきましたが、今回は台風12号接近により止むなく<川の学校>を中止した為、いつもより少ない参加者となりました。

一般参加者、オイコスメンバーと家族を併せて総勢23名が集合地を出発。やや薄暗くなった頃、ホタル棲息地の“谷津”を目指しました。

ほんの5~6年程前までは、八千代市内の広範囲な谷津や田んぼのあちこちに沢山のホタルが棲息していました。その棲息状況をオイコスは20年余にわたり調査を続けましたが、環境悪化によりホタルの個体数が急減。その調査も終える事になりました。(詳細後述)

毎年のことですが、観賞会に皆さんをご案内してみると子ども達ばかりか若い親の皆さんも自然のホタルを見たこと無い人が殆どで、期待する気持ち一杯です。

すっかり暗くなった現場は、今年も期待通りにロマンの光を放って田んぼの端に活発にホタルが出迎えてくれました。八千代のホタルはヘイケボタルという種です。もう少し大きな光を点滅させるゲンジボタルには光の強さは及びませんが、夏の暑い最中の暗がりには光り輝く無数の点滅に、一同大喜びです。

この時期毎年、睦小学校の観賞会が催され今年も大勢の子ども達とも元気な挨拶を交わしながら行き交いました。折しも当日は習志野自衛隊の花火大会とも重なり、静かな谷津の中にも賑やかな音が響き渡り、夏の夜真っ盛りの饗宴でした。

幻想的なホタル火を十分観賞して、真夏の夜空に大きな星でかたどる夏の大三角形と、今年大接近中の火星を仰ぎ見ながら帰りました。

(追記) オイコスは1993年~2015年の22年間にわたり、八千代市内29カ所の調査地点を設け、メンバー手分けして7月~8月にかけて、棲息数の調査を行ってきました。しかし、年々棲息地の環境が悪化し個体数の減少が著しく、遂に2015年を以って調査活動を終了しました。

(オイコス代表 川瀬 純一)



## 今年もホタルに会えました

小学5年 川瀬 哲平

ぼくは、毎年ホタルの鑑賞会に参加しています。

「今年は何匹みられかな？」と、わくわくしながら出発しました。

ホタルが見られるポイントにどんどん近づくにつれて、暗さに目が慣れていき、ホタルの1つの光を発見！

毎年この光を見ているけれど、最初の1匹の光を見つけた時は、毎回とても感動します。

だんだん周りの光が増えていき、強い光や弱い光が混ざり合って、自然のイルミネーションみたいで、ぼくは大好きです。

本当は、もっとたくさんのホタルがいたのに、農薬でほとんどが死んでしまったと聞き悲しくなりますが、農家の人に必要な農薬をやめるように言うわけにもいかないし、なんとか人とホタルがうまく共存できたらいいのになと思います。

来年も少しでも多くのホタルに会えることを楽しみにしています。

## ホタル観賞会に参加して

TOTO 社員家族・飯塚 真弓

私は、京都府北部の町で育ちました。周りは海と山に囲われ、子供の時は田んぼや畑や川で日常的に遊んで過ごしました。

夏休みともなると、男女、年齢関係なく近所の友達たちと連れ立って当然のように自然の中で遊んでいたことを思い出します。朝晩はそれなりに涼しくなる地域です。夜にはカエルがうるさいほど鳴き続けても、窓を開けて夜風で涼を取っておりました。

田舎ですので、主要道路沿いにしか電灯がなかったとそのころは思います。どこかの場所でホタルを見ることができるとい話は聞いたことがありましたが、夜に出歩いて見に行くことはありませんでした。(たぶん子供の足でも30分以上かかる場所だったような気がします)

そう言う訳で、今回のホタル観賞会に参加して少なからずホタルの舞を見れたことは、少し童心に帰れたような気分でした。ボランティア活動の一環での参加ではありましたが、子供たちに少しでも自然と触れ合う機会を与えられたことで、自然豊かな環境を維持していくためにも子供たちに現状を理解してもらいたく、自然に対して興味を抱いてくれたらと思っています。

## 石神谷津のホタル観賞会

深澤 一郎

8月4日(土) 貞福寺の駐車場へ集合し、八千代オイコスが主催する石神谷津のヘイケボタル観賞会へ出掛けました。参加人数は小学低学年の子供が4人、大人19人、どの位ホタルが飛んでいるか期待が膨らみます。

田んぼに沿った道を歩いていくと、何処からか花火を打ち上げる音が聞こえ、田んぼの稲が絨毯の様に広がり心地よい風が吹いています。途中他のグループの人に会い、また、睦小学校の児童約80名が見学に来ているのにも会いました。暫く歩いていくとホタルがいました！道路に近い草の生えている所や田んぼの中等に、小さな光を点滅させながら飛翔しているものもあり幻想的な風景です。その数約30匹程でしょうか、また暫くすると1箇所にはホタルが集まって来て点滅し、さながらホタル会議でもやっているかの様な状況がありました。この場所は耕作農家が農薬散布を控えてくれているそうです。まだ奥に田んぼが続いていますが、他の所はほとんどいないと、先に来たグループの人の話です(数日前に農薬散布があったようです)。

八千代市内では、ホタルが棲息している所は数少なく、石神谷津のホタルは貴重で、いつまでもこの自然が守られていくことを願っています。

# コスモエコウォーキング

## 参加者募集

地域の自然と歴史に触れながら、秋晴れの日、清掃活動を行いながら楽しめます。

- ◆ 実施日 2018年10月21日(日)
- ◆ コース概略  
八千代中央駅～萱田の水神様～萱田・長福寺(赤門)～萱田のボンテン塚・  
出羽三山碑～萱田時平神社～飯縄神社～新川遊歩道～富士美橋  
ここから、桑納橋まで清掃活動～オイコス活動拠点・花輪川ベース 解散
- ◆ 集合時刻・場所 9:00 東葉高速線八千代中央駅改札前
- ◆ 出発時刻 9:15
- ◆ 解散時刻 12:30頃予定
- ◆ 参加募集人員 30名
- ◆ 参加費 300円(保険代・資料代他)
- ◆ 服装など 歩きなれたシューズ、歩きやすい服装で、飲み物、軍手ご持参下さい
- ◆ 申し込み・お問い合わせ 10月10日までに下記へお申し込み下さい  
◎お問合せ先：NPO法人八千代オイコス 代表理事 川瀬 純一  
◎住所：276-0046 千葉県八千代市大和田新田 446-226  
◎電話：090-8511-3086 FAX：047-459-0025  
◎E-mail：info@yachiyo-oikos.jp

## 川の学校中止

7月28日、29日は、12年目の川の学校の予定でしたが、台風12号の接近でやむなく、中止しました。参加予定の小学生、また保護者の方、さらに講師、オイコスメンバーも残念！！でいっぱいでした。

今年の夏は、酷暑ということで、熱中症対策に気を配り、楽しく川で学びを体験できるように！と、講師、オイコスメンバーで話し合いプログラムを準備していました。

チラシ作り、八千代市・教育委員会後援申請、地域新聞取材など広報にも努めました。

開催前には、川の整備や水深なども安全確認など準備しました。

今年参加できなかった皆さん、来年リベンジしましょう！

オイコススタッフ 桑波田 和一

平成30年度市民活動団体支援金交付制度  
の交付額が決定しました。

八千代オイコスへのご支援ありがとうございました！

交付金額 81,677円

### 編集後記

「川の学校」が台風により中止となったのは、本当に残念でした。来年こそ花輪川に子どもたちの歓声が響くことを願います。今号は、猛暑の中、活動してきた様子を掲載しています。皆さま、お疲れ様でした。秋の活動も始まりますね。たくさん笑顔がみられますよう、健康に留意して頑張りましょう。(TANA-J)

発行責任者：川瀬 純一

問合せ☎：090-8511-3086

mail：info@yachiyo-oikos.jp